
 ADD 変数名リスト ;

機能 :

ADDは、直前のコマンド文の変数リストに指定された変数リストを追加して再実行します。DROPとは逆の機能となります。

使用法:

ADDを用いると、対話型モードにおいて、直前で推定された回帰モデルに変数を追加して回帰分析を行なう際に、再度すべての変数リストをタイプする必要がなくなります。

```

コマンド      ADD var1 var2          と次のコマンド列      RETRY
                                                    >> INSERT VAR1
                                                    >> INSERT VAR2
                                                    >> EXIT
  
```

は機能的には同一です。すなわち、両コマンドともコマンドの最後に変数名 VAR1 と VAR2 を追加して以前のコマンドを永久的に修正します。次に、両ケースともコマンドは自動的に実行します。両者の違いは、「直前」の意味についてであり、ADDはまさに直前のコマンド文に対する追加であるのに対して、RETRYは行番号を指定すればそれ以前のどのコマンド文に対しても追加が可能です。ADDには行番号を付けることは出来ず、ADD(DROP)コマンド以外の最後の行を常に修正します。

ADDやDROPは、最初の推定コマンドを入力することによって密接に関係した一連の回帰を実行することができます。ADDやDROPはコマンドを永久に変更しますから、一回一回の新しい修正はそれまでに行ったすべての修正を考慮する必要があります。

ADDとDROPを結合してREPLACE機能を行うような一つのステップにすることや、コマンドを修正することはできません。このような状況では、必ずRETRYを用いて下さい。

例:

```

      OLSQ(WEIGHT=POP) YOUNG C RSALE URBAN CATHOLIC
      ADD MARRIED
  
```

は、2つの回帰分析を実行します。このとき、2番目の回帰式は

```

      OLSQ(WEIGHT=POP) YOUNG C RSALE URBAN CATHOLIC MARRIED
  
```

となります。これはまたREVIEWすると、そのコマンドが修正されTSPの内部ストレージとバックアップファイルを置き換えるので、コマンドがどうなったかが分かります。

ADDの別の使用例として散布図を描く場合があります。次のコマンドは2つの散布図を同じオプションを使って描きますが、2つの系列は2番目の散布図に加えられます。

```

      PLOT(MIN=500,MAX=1500,LINES=(1000)) GNP G GNPS H
      ADD CONS C CONSS D
  
```

この場合は同じオプションで2つのグラフが出力されますが、2番目のグラフには変数CONSと変数CONSSが追加されたグラフが作成されます。